



舞鶴市議会最年少議員

# 鴨田あまつ通信

後援会だより Vol.08

発行/鴨田あまつ後援会  
舞鶴市字境谷158  
TEL0773-75-0800  
mail k.akitsu3@gmail.com

## 新たなリーダーと国の課題

我が国では、令和2年9月16日に菅内閣が発足しました。

2012年12月26日の第2次内閣発足以降、安倍晋三首相の連続在任日数は2822日で幕を閉じ、第1次政権を含む通算在任日数は3188日でいずれも憲政史上最長となりました。

この間を振り返りますと、アベノミクスを中心とした経済政策、米国を中心とした外交政策、安保法(集団的自衛権の行使容認)、公職選挙法(選挙権18歳)、働き方改革関連法、東京五輪の開催、新元号(令和)の決定など、数えきれぬ決断と改革が評価された一方で、自衛隊日報隠匿問題、森友加計問題、桜を見る会などの疑惑に批判が集中したところです。

コロナ禍で益々遠のく日本経済の発展、経済困難に直面する人々の救済、人口減少等の国家的課題、中国の脅威など、多くの課題が山積する状況下で、菅総理がどのような日本を目指すのか。地方から注視し、そして地方の声を上げていきたいと思えます。

本市においては、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、様々な事業や催しが中止されてきましたが、文化芸術活動やスポーツ大会等が少しずつ再開されてきております。感染拡大に配慮しながらできる方法を模索する。オンライン会議やリモートワークなど、コロナをきっかけとして急激に定番化しました。人は困難に直面しても、成長し対応していきます。

「やめる」選択は簡単です。しかしながら困難に直面した時に「やめる」結論を出す前に、どうすればいいか。そのために自分は何かできるか。そういう思考を持ち続けたいと思えます。



2020年10月吉日 鴨田 秋津

令和2年  
9月定例会

## 放置竹林問題や農業振興について質問!

### ・地域の課題と活性化について

- (1) 放置竹林について
- (2) 特色ある農作物について
- (3) 移住定住促進について



(1)について 皆さん、ご存じでしょうか。

舞鶴市は放置竹林面積が京都府内でナンバー1、増え続ける放置竹林が問題です。「京都」の竹と言えば、一般的に南部をイメージされると思いますが、実は圧倒的に北部に集中しています。府全体で約5,500ヘクタールと言われている中、舞鶴市は約1,350ヘクタールと断トツであります。この数字は府内竹林面積の25%を舞鶴が占めており、全国の自治体でもトップクラスと言われています。深刻な放置竹林問題に対する市の考え。

また伐採した竹をどう利活用し、ビジネス化していくか等を質問しました。

(2)については、舞鶴は海・山・川など自然に囲まれており、その恵みを受けて育った多様な農林水産物を最大限に活かし、魅力ある一次産業を創出することは、舞鶴の発展に必須であると私は考えています。その中で、農作物のブランド化やコロナ禍における販路拡大などについて質問しました。

(3)については、人口減少がとまらない本市において移住定住政策に重点を置くことは必須であり、昨年は15組37名の方の移住者がありました。しかし移住者の人数のみをピックアップすることは本質ではなく、市外から人が入ることによる新たなネットワークの形成や、地域コミュニティの活性化が大事であると私は考えます。また新型コロナを機に、都市部から地方への移住に関心を持つ人が増えております。移住定住施策に対する市の意気込みや、空き家特区に指定されている3地区(加佐・大浦・池内)の空き家バンクの課題等について質問しました。

(1)については、放置竹林は課題として認識していること、竹の利活用についてはメンマへの加工など竹の利活用を研究し、ビジネス化を目指してほしいとの回答。(2)については、万願寺あまとう以外にも本市の気候、風土に適した野菜などのブランド化を検討していきたい、また販路拡大は、ICT技術を活用した販路開拓を進める必要性を認識するとの回答。(3)については、地方回帰を追い風として、更に移住定住政策を押し進めると回答、特区の空き家バンク制度については、バンクへの登録が進んでいないと認識し、市職員や移住サポーターの皆さんとともに制度の周知やきめ細かい対応に取り組むとの答弁でした。

質問の動画は  
ユーチューブ  
YouTubeで  
いつでも閲覧できます